

承認番号	13800AZZ02585000
保険適用	1963年8月
販売開始	1963年8月
再評価結果	1980年8月

根管消毒・鎮痛鎮静剤

** 劇薬

クレオドン®

(グアヤコール)

CREODON®

* 貯法：光を避けて室温で保管すること。
使用期限：外箱及びラベルに表示の使用期限内に使用すること。

【組成・性状】

1. 組成

100 mL 中に次の成分を含有する。

(有効成分) グアヤコール 100 mL

2. 製剤の性状

無色～淡紅色澄明の油状の液で、特異な芳香がある。

【効能・効果】

齶窩及び根管の消毒、歯髄炎の鎮痛鎮静、根端（尖）性歯周組織炎の鎮痛鎮静

【用法・用量】

適量を患部に貼付する。

歯髄処置の場合：齶窩の拡大、清掃後、適量を小綿球に浸潤させて窩内に挿入し、仮封する。

根管処置の場合：齶窩・根管（髓腔）の拡大、清掃後、適量を滅菌綿繊維又はペーパーポイントに浸潤させて根管内に挿入し、仮封する。

【使用上の注意】

1. 副作用

過敏症（頻度不明）

過敏症状が現れた場合には、使用を中止し、適切な処置を行うこと。

2. 適用上の注意

(1) 軟組織に対し局所作用を現すので、口腔粘膜等に付着させないよう配慮すること。

(2) 軟組織に付着した場合には、直ちに清拭し、消毒用エタノール、グリセリン、植物油等で清拭するか、又は多量の水で洗うなど適切な処置を行うこと。

また、手指等に付着した場合には、石けん等を用いて水又は温湯で洗浄すること。

万一眼に入った場合には、直ちに多量の水で洗浄する等の適切な処置を行うこと。

(3) 歯科用にのみ使用すること。

3. その他の注意

急性毒性（グアヤコール）⁵⁾

ラット 経口 LD₅₀ = 725 mg/kg

【臨床成績】¹⁾

適用	症例数	成績		
		良好	概良	不良
歯髄処置	194	187	7	0
根管処置	108	101	5	2

【薬効薬理】

<薬理作用>

本剤はグアヤコールの迅速な局所麻酔作用により⁶⁾、齶窩の消毒、各種の歯髄炎及び根端（尖）性歯周組織炎に対し優れた鎮痛鎮静、消炎作用を示す¹⁾³⁾⁷⁾。

<消毒作用>

グアヤコールのフェノール係数は0.9であり、消毒作用を有するとともに⁴⁾、各種細菌、真菌に対しても広範な抗菌力を持つ²⁾。

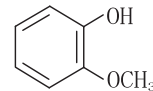
【有効成分に関する理化学的知見】^{8) *}

一般名：グアヤコール (Guaiacol)

化学名：2-Methoxyphenol

分子式：C₇H₈O₂ (分子量：124.14)

構造式：



* 性状：本品は無色～淡紅色澄明の油状の液又は無色の結晶で、特異な芳香があり、液は強く光線を屈折する。本品はジメチルホルムアミド、エタノール（95）又はジエチルエーテルと混和する。本品は水にやや溶けにくい。（結晶の融点は約 28℃である。）

【包装】

10 mL

【主要文献】*

- 1) 森本 優, 浅井康宏, 寺門有二, 渡辺 正, 服部玄門, 関根永滋: クレオドンの臨床成績について, 歯科学報, 60(8), 111 ~ 116, 1960.
- * 2) 社内資料: 北里研究所: クレオドン (グアヤコール) 及びクロラムフェニコールの抗菌力試験 (1963).
- 3) 浅井康宏: グアヤコール及び亜鉛華グアヤコールが歯髄に及ぼす影響に関する臨床病理学的研究, 歯科学報, 64(8), 1 ~ 74, 1964.
- 4) 吉利 和, 石川浩一, 真下啓明: 臨床薬理学体系, (14), 113, 1966.
- 5) 米国国立職業安全衛生研究所: 4万2千種化学薬品毒性データ集成, 1975.
- * 6) 社内資料: 栄研環境科学研究所: キャンフェニック、クレオドン神経麻痺試験 (1975).
- 7) 鳥居栄一: グアヤコール及び亜鉛華グアヤコールが麻酔抜髄創に及ぼす影響に関する臨床病理学的研究, 歯科学報, 76(8), 91 ~ 135, 1976.
- 8) 日本薬局方外医薬品規格 (2002).

【文献請求先】

主要文献に記載の社内資料につきましても下記にご請求下さい。

請 求 先: ネオ製薬工業株式会社 学術情報部
住 所: 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 3-1-3
ホームページ: <http://www.neo-dental.com/>
フリーダイヤル: ☎ 0120-07-3768

製造販売元



ネオ製薬工業株式会社

〒150-0012 東京都渋谷区広尾3丁目1番3号
Tel.(03)3400-3768(代) Fax.(03)3499-0613